

(キ) Garr Reynolds名誉校長『プレゼンテーション講義』

日時： 11月1日（月）第3・4限 場所： 体育館

目的： グローバル探究での取り組みの発表会に向けて、「人に伝える」効果的なスライドの作り方、話し方、態度など、プレゼンテーションの方法を学ぶ

対象： 第2学年

内容： プレゼンテーションをするにあたり、その「準備」「デザイン」「話し方」などについて基本的な項目について、ワークショップも交えて教えていただいた。

- 準備段階ではパソコンを切って、アナログ状態でしっかり考えること。付箋などを使って、アイデアを出す。何が問題で、解決方法は何か。プレゼンで何を伝えたいかを明らかにする。あたりまえのことであるが、いきなりiPadでスライドを作りはじめがちな生徒たちには新鮮だったようである。
- 共感を生むストーリーにすること。聞き手が山あり谷ありの学び取るものがあるものであること。
- スライドはシンプルであること、情報でいっぱいにならないこと。シンプルにするのはシンプルではないが、ビジュアルを使って聞き手に関心を持ってもらう、気を引くことが大切。グラフやデータの示し方、背景のデザインの効果的な示し方や、写真や動画を使うことによってより聞き手の感情を刺激することなどを、詳しく説明していただくなど、さっそく使えそうなアイデアが満載であった。

12月3日の学年発表会においても、生徒たちの発表を聞き、コメントをいただく予定。

生徒の感想

- どう話せば見ている人たちの興味を惹くことができるのかを教えていただいたので、今後のプレゼンテーションに活かせそうだなと思った。
- プレゼンテーションの効果的な方法を学んだので、その方法を用いて、学年発表会に向けて自分の探究してきた内容をしっかり発表できるようにしたい。
- スライドを作成する際に、ビジュアルを効果的に使うことで、自分たちの伝えたいこともより相手に伝わりやすいことがわかったなので、実際にやってみたいと思う。



(ク) 外国人講師による課題研究支援

本校から徒歩圏内にある国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学では、令和3年度は国費私費あわせて308名もの外国人留学生在が学んでいる。それぞれの専門分野に豊かな知見をもち、英語も流ちょうに話す。高い専門性と英語能力を活かし、「グローバル探究Ⅱ」における英語による課題研究の支援をお願いした。

国籍	性別	担当ゼミ
マレーシア	男性	みんなで作る笑顔のコミュニティ
フィリピン	男性	グローバルが生み出す力
マレーシア	女性	蒼い地球を未来につなぐ
マレーシア	女性	いのちの輝きを未来に伝える
フィリピン	男性	蒼い地球を未来につなぐ
インドネシア	女性	みんながちがうから、みんなで支え合う
マレーシア	女性	先人の知恵を未来へ届ける

配置の効果

- ・様々な国の留学生と接することで、異文化理解が深まった。留学生には、1年生への異文化理解講座もお願いした。
- ・ゼミに留学生が入っていくことで、「グローバル探究」の授業における英語の使用頻度が高まった。
- ・留学生の専門分野を探究活動に活かすことができた。
- ・ガーレイノルズ名誉校長のプレゼンテーション講義に参加するなど、留学生自身にとっても大きな学びの場となった。

《留学生のプレゼンテーション》

What I had learned from you. (国際高校生から学んだこと)

- ・ Enthusiastic learner
- ・ Creative when problem solving
- ・ Kind, respectful and helpful when interacting with peers
- ・ Encourage other members of the group



(コ) スタディツアー

令和3年度スタディツアーは、本校で第1回目となる学校行事で、当初はシンガポールでの研修を予定していたが、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、九州方面での3泊4日の研修に変更となった。

日々グローバル探究で取り組んでいる活動をさらに深めることを目的として、従来の修学旅行で行うクラス別の活動を少なくし、「先人の知恵を未来に届ける」「いのちの輝きを未来に届ける」「みんなちがうからみんなで支え合う」「みんなで作る笑顔のコミュニティ」「蒼い地球を未来につなぐ」「グローバルが生み出す力」の6ゼミをそれぞれのグループで活動・宿泊を計画した。その中で、福岡県・佐賀県・熊本県方面での研修を中心とするAグループ、福岡県、大分県、熊本県での研修を中心とするBグループの2つのグループに分かれて、研修先をゼミの担当教員と各ゼミのスタディツアー委員の生徒を中心に検討した。当初予定していた、学年全体の大まかな行程は以下の通りである。

- 1日目：学年全員で、新大阪駅から新幹線で移動。
ゼミの探究テーマに応じて小倉駅または博多駅で下車。AコースとBコースに分かれて「グローバル探究」のフィールドワーク
- 2日目及び3日目：ゼミごとに「グローバル探究」のフィールドワーク、3日目の夜はクラスごとのリクレーション
- 4日目：クラス別の自由活動。その後、学年全員が博多駅に移動して、新幹線で移動

出発直前の新型コロナウイルス拡大の影響により、より感染症対策を徹底した形での実施となった。

クラスごとではなく、グローバル探究のゼミごとに行動・宿泊する形は、メリットと同時にさまざまな課題もあったが、日々の探究活動を深めるという目的は概ね達成できたと言える。

(a) スタディツアー 「みんなでつくる笑顔のコミュニティ」ゼミ 生徒：32名
Bコース

概要：ゼミに所属する生徒各自のテーマに合わせて目的地を設定し、観光産業や地域活性化の実例を確かめたり、バリアフリーやユニバーサルデザインを取り入れた施設見学などのフィールドワークを行った。

第1日目 ①

訪問先：門司港

目的：レトロな街並みの発展と保存の過程について考える

活動内容：門司港周辺でのフィールドワーク

成果：【生徒の振り返り】レンガで造られたレトロな雰囲気で福岡がどのように工業発展してきたのかを学ぶことができた。古い趣ある街と現代の街が同じ場所に共存していて、とても良かった。共存と保存の重要性を知ることができた。私たちの住んでいるところの風とは違う風が吹いていて新鮮だった。レンガの建物が多く、その中でも絵画がいっぱいあるギャラリーやお土産屋さん、税務署の建物などでその土地で有名なものや景色などその土地にとっては些細なことでも新鮮味のあるものが沢山あった。

第1日目 ②

訪問先：TOTOミュージアム

目的：トイレを中心とする水まわりの歴史を知り、生活文化の変遷について考える

活動内容：ミュージアムの方の講義及びミュージアム館内の見学

成果：【生徒の振り返り】ものづくりや、継続の難しさを学んだ。国や地域によってトイレの形やデザインなどいろいろ違ったし、また機能もちがって、それぞれの地域に住む人たちの生活の一部が垣間見えた。人が生活するのに欠かせないトイレやお風呂を清潔に保つためにたくさんの研究や実験を重ねたんだろうな思った。時代が進むにつれて、トイレを流すために必要な水の量が減っていて、環境への配慮をしていることがわかった。トイレの形状の移り変わりや、構造、歴史を知れてとても面白かった。今の最新のトイレは床につながっているのではなく壁に付いていて床に隙間があり掃除をしやすいものになって

いることも知った。



第2日目 ①

訪問先：うみたまご

目的：動物との共存や、だれもが楽しめる施設のあり方について考える

活動内容：施設内見学

成果：【生徒の振り返り】それぞれの魚や動物に合わせた環境作りが大切なんだなと思った。飼育員さんが動物が過ごしやすいように色々と工夫していた。小さい場所での生活では生きづらいのではないかなと思った。水槽の中をスタッフの人が掃除をしているのを見て、動物が好きだという理由だけではできない仕事だなと思った。階段が少ないように感じた。施設内の通路の幅が広くて車いすが通りやすそうだった。小さい子でも水槽の中が見えるように台が置いてあった。

第2日目 ②

訪問先：地獄めぐり

目的：地獄めぐり（温泉街）が観光に及ぼす影響について考える

活動内容：海地獄と血の池地獄でのフィールドワーク

成果：【生徒の振り返り】観光地として、いかにして集客を行なっているのかということや、このコロナ禍を乗り切るための創意工夫を知ることができた。英語や外国語のパンフ

レットなどが置いてあった。それぞれの温泉を利用した商品や名物があった。人の手を加えないでできたと思えない池の色がとても綺麗だった。地獄の歴史や噴火した時の写真をみて自然や文化と共に生活するのは決して簡単なことではないこと改めて知ることができた。その場所での昔の出来事などを壁に貼ったりして、違う県から来た人にも伝わると思った。観光名所でもあるため綺麗に整備されていたと思う。